VOL.6 #14 2016年11月21日(月)

## DOGAWA TIMES

取材/編集:学生記者クラフ 発行: 江戸川大学企画総務課

## 2016 開催

こぞって足を止め、興味 銀座と異なる光景に人々は

ミツバチが

同イベントの企画とし ミツバチの生態や銀座

> 各地の農業を結ぶ 都会のど真ん中から

も協力している。 規模な全国の農業を支援するこのイベントには、 された。"新しい GINZA" を発信する祭事も、 パルプ会館で『ファームエイド2016』が開催 本学の社会学部現代社会学科・鈴木輝隆特任教授 年で9年目を迎えた。公的な補助金を使わずに中 11月6日と6月5日、東京・銀座3丁目にある (取材・撮影:小林千紗)

となり、11月6日は終日晴 も多い。館外では、Ginza こともあり、街を歩く人々 天。両日とも日曜日という 全国各地の特産品やそれら プチ・マルシェが開催され、 を用いたオリジ

も行われていた。

銀ぱちは、「都市と自

館屋上ではミツバチ見学会

が生育し活動するのに適し 公園がある銀座はミツバチ がなく、また周りに皇居る かい気温で、農薬の危険性

称:銀ぱち)の活動を人々 みつばちプロジェクト(角

に知ってもらおうと、同会

2006年にスタートし 然の共生」をテーマに 6月5日は午後には快晴

るというプロジェクトだ。 座。で"ミツバチ"を育て た。これは名前の通り、銀 銀座とミツバチがどうし

たら結びつく のだろうか。

を受けた福島県産のフルー たとえば、震災で風評被害 も全国各地で増えている。 が生まれ、それに携わる人 銀ばちを核に様々な動き

界中にアピールできる」と ることで、綺麗な東京を世 を作るために屋上を緑化す ています。ミツバチの蜜源 るという目的で人工腐植十 の焼酎のデザインは、 芋焼酎・『銀座芋人』とし 市の後藤酒造とコラボし いる。収穫後は福岡県豊前 ツとはちみつとでカクテル て商品化、販売された。こ が作られている。 を利用し『芋』が作られて また、"屋上緑化" 鈴木 をす

が生まれていったり、新しい自分

された。普段の ナル商品が販売



中左:屋上にあるミツバチの巣の様子 中右:屋上緑化に取り組むパルプ会館 下:Ginza プチ・マルシェ 上:ミツバチ見学会の様子



章仁さんは、「銀座は土地

銀ぱちプロジェクト田中

が高いため公園を作るのが

ている。

グッドデザイン賞を受賞し 合って作り、2016年度

本学現代社会学科 の学生も参加

ションツールとして人と人

とをつないでいるのです。

いあり方が、コミュニケー

鈴木教授は、銀ぱちプロジェ クト副理事長・田中淳夫さんと の交流があり、『ファームエイド 2016』に協力している。現代

難しい。でも、

屋上の新し

社会学科の学生たちも、6月、11 月にボランティアとして活動して いた。2年生の及川瞭さんは「全 く違う職業や価値観持った方々が 集まることで新しい発想が生ま れ、情報交換によって新しい企業

元、デザイナーやコピーラ 教授のコーディネートの

イターが銀座ミツバチプロ

ジェクトメンバーと話し

の考えを持てたりするというのは 魅力的。この活動でネットワーク を作るのはもちろん、自分の知識 をひろげたい。銀ぱちのはちみつ を食べるのも楽しみ」という。



鈴木教授は、「比較的暖

